

第6回 「平田まるごと郷歩き」

3月31日、平田・柳水地区郷づくり協議会が、「益城町平田・谷川復興まち歩き『平田まるごと郷歩き』」を開催しました。

当日は、地区内外から約70人の参加者が集まり、熊本大学工学部社会環境工学科の学生が提案したフットパスコース(平田教育集会所→お法使まつりのお仮屋→寿徳寺→福田グラウンド→谷川震災遺構)を歩きました。

コース途中には、山の中に、地元の有志たち



が竹を利用して階段を造るなど整備した道があり、参加者は整備された道を歩きながら、地震後、山の中に現れた亀裂や土手が崩れた部分などを熱心に見ていました。

地元の有志により整備されたコース

事前のコースの整備だけでなく、当日の駐車場整理から見学箇所の説明や誘導、参加者へのおもてなしまですべて地元の人たちの手でわれ、地域の団結力やおもてなしの心を感じる素晴らしいイベントとなりました。



熱心に話をきく参加者

濱田雅之会長のコメント

「皆さんが喜んでくれたので、役員たちも『やってよかった』と喜んでいました。イベントをすることで、外の人だけでなく、今までまちづくり協議会に参加していなかった人たちの参加のきっかけにしたい」

復興整備課まちづくり推進室 ☎ 289 - 2930

一昨年の7月に工事着手した災害廃棄物処理事業(公費解体)が、平成29年度をもって終了したことを受けて4月5日、同事業に協力をいただいた団体に対して西村町長が感謝状を贈呈しました。

感謝状贈呈を受けたのは、同事業開始当初から終了に至るまで、災害ごみ一次仮置場の管理運営と廃棄物の処理業務に携わった県産業資源循環協会(大野羊逸会長)と同協会宇城支部(早速芳和支部長、および役場に環境衛生課を新設した当初から同じフロアに常駐し、解体業務全般にわたり業務に

携わった県解体工事業協会(小原英二理事長)と日本補償コンサルタント復興支援協会(川畑清夫会長)の4団体です。

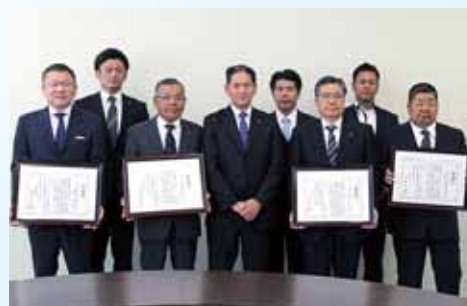
贈呈後、西村町長は「当初、2年以内の完了は難しいと思いましたが、皆さまのおかげで無事終了することができました。今後もあらゆる災害が想定される中、連携が大事であると感じています。ここまで復旧・復興が進んだのは皆さまの支援と努力のおかげであると思っています」と感謝の言葉を述べました。

同事業実施期間中の町民の皆さまのご理解とご協力を改めて感謝いたします。

振り返る 復旧・復興

公費解体 ②

事業が終了
関係団体へ感謝状を贈呈
解体・災害廃棄物処理事業に協力



感謝状を受けた4団体